

母子寡婦福祉連合会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和6年6月2日（日）11:00～12:00

会 場 寺井地区公民館 203和室

参加人数 16人

〇はじめに

【市長】

・元旦に発生した能登半島地震では、能美市でも震度5強を観測し、1,000軒を超える家に被害が出たが、幸い人的被害はなかった。市内の復旧復興に取り組むとともに、能登へ職員や車両派遣を行う等、能登の支援も行っている。今も120人くらいの能登の方が、市内で避難生活をされているので、引き続き支援をしていきたい。

・一昨年の大雨等、最近自然災害が多発している。また、社会情勢も目まぐるしく変わってきており、行政として市民に対するサポートや、あるいは皆さんが持たれている課題が複雑化しているような気がする。皆さんの悩みや課題、思いをしっかりと聞く機会を増やすため、今日のように私と直接意見交換する場を設けているほか、市に悩みを相談に行かなくても、専門的な知識を持っている職員が対応するため、たらい回しになってしまうこともあるので、それを防ぐために社会福祉協議会にワンストップで相談に乗れる仕組みを設ける等、重層的な支援を作っている。

・市内には、一人暮らし世帯が約2,600世帯あり、デジタル技術を活用して、その方々をサポートする仕組みを作ろうとしている。例えば、空気清浄機にセンサーをつけて、元気がどうかを確認するようなことを始めていたり、医療介護情報連携システムを構築し、必要ときに情報を共有し、支援に役立てたりできるようになった。「デジタルというが、わからない、できない」という声もしっかり受け止めながら、市民が安全・安心、快適に暮らせるような仕組みを作れるように努めたい。

・今日は、してほしいことや困っていること、市の取り組みで聞きたいこと等、お話しただければと思っている。

○意見交換

【参加者】地震で、玄関先の道路側溝に厚いコンクリートが倒れて大変だった。田んぼを埋め立てた土地だからかと思う。

【市長】土壌によって被害の大小が出ているみたいで、市内に74の町会・町内会があるが、それぞれ被害状況に差があった。ただ、能登に比べれば被害が少なかったので、「能登が大変だから、能登を応援してあげて」という声が多かった。

【参加者】宮竹町の避難所は宮竹小学校体育館だが、一昨年の大雨の時、宮竹住宅から体育館までの道路に雨水が流れ、行くことができなかった。避難所をどのような基準で決めているのか。

【市長】一昨年の大雨は我々が想定していた以上の大雨であったため、避難所に行けないという事例もあった。災害は大雨だけでなく、台風、地震等もあり、ある程度の規模や耐久性等がないと、避難所に指定できない。

【参加者】宮竹町は後ろに山もあるので、土砂崩れの可能性がある。また、少し先には一昨年の水害で崩れた鍋谷や館の川がある。どこに避難するのがベストなのかわからない。

【市長】今、ハザードマップを見直し、災害時にスマートフォン等で確認しやすいようにデジタル化したものを準備中である。通常、雨は予報から事前に想定できるが、一昨年の大雨は想定外の雨量であり、まさか避難所の周りが浸水するとは思っていなかった。怖いのは予測できない地震であり、長期化の可能性もある。市民の皆さんにどこに逃げてもらい、どれだけの期間、避難所に滞在してもらおうかをしっかり検討していかなければならない。避難物資の手厚い備蓄も進めていて、特に能登半島地震の時にトイレが大変だったという話を聞いているので、簡易トイレの数を増やそうとしている。

【参加者】ひとり親家庭の方が市営住宅に入居したいが、入居条件が厳しくて応募できないと聞いている。条件を緩和できないか。

【市長】国から助成を受けて市営住宅を整備しているため、国の要件があり難しい。ただ、ご要望が多いので、見直しを考えたい思いはあるが、今能登からの避難者を結構受け入れており、なかなか厳しい状況である。

【参加者】宮竹住宅にも避難者の方が入るのかと思っていたが、今空き部屋が多い状況である。共益費を入居者でまかなっているのですが、負担が大きい。空き部屋があるのに、市の広報紙等見える形で募集をかけていないのはなぜか。入居者を増やせないのであれば、そ

の分の補填も考えていただけないか。

【市長】入居募集はしているはずだと思う。ただ、部屋は空いていても中が傷んでいる場合がある。能登半島地震を受けて、需要を見ながら改修をしていく予定である。共益費の取り扱いについては詳しく把握していないので、一度確認する。

【参加者】預かっている話を2つさせていただきたい。1つ目は、18歳以下の医療費を支援いただき、大変ありがたく思っているが、18歳以上でも学生のうちは一部補填だけでも支援してもらえないか。医療費が家計を圧迫するとわかる年齢になり、子どもが病院へ行き渋ることがある。学生の間はなんとか支援してほしい。2つ目として、寺井湯の入浴補助券が出ているが、寺井湯が閉店するので、代わりのお風呂支援があったら助かる。

【市長】皆さん、寺井湯をよく利用されているのか。

【参加者】母子会では、券をもらって行っている方が結構いる。光熱費が高騰しているので、大変助かっている。

【市長】既存入浴施設を活用することを検討していかなければならないと思う。

【参加者】寺井湯助成の担当は福祉課なので、子育て支援課の担当となるひとり親家庭にはなかなか制度の案内が行かず、この制度を知らない母子寡婦も多くいる。ひとり親になって10年くらいたつが、私も昨年初めてこの制度を知った。また、毎年1回の現況届の案内に同封してもらっているチラシで母子会という会があるということは知ることができるが、どんなことをしている会であるかまでは詳しくわからない。

【市長】母子会のチラシはどのように作っているのか。

【参加者】母子会でチラシを作成し、子育て支援課に周知をお願いして、現況届や学習支援の時に一緒に配布してもらっている。会の内容や参加者を具体的にお知らせしたいと考えているので、広報の方法について知恵を貸していただければ、自分たちでやることやお願いしたいことを検討できる。

【市長】チラシを一度取り寄せて、どのように配布しているのか確認する。お知らせはペーパーが良いか、デジタルが良いか。

【参加者】デジタルもいいと思うが、主が社会福祉協議会になるので、どこまでして良いかわからない。また、広く案内する方法についても詳しくないので、困っている。

【市長】我々もお知らせを印刷物だけでなく、スマホで確認してもらえるようにしている。どんな形で出せば多くの皆さんに見てもらえるのか検討してもらえればと思う。

【参加者】「能美市安心のてびき」はどこでもらえるのか。

【参加者】以前、市役所でどのような支援が他にあるのか聞いたときに、課をまたいだ話となったため、安心の手引きをもらえた。毎年内容は変わっていると思うが、それ以降手元に届いたことはない。

【市長】一度、確認する。

【参加者】コロナ禍に引き続き、Chromebookでリモート授業が受けられたら嬉しい。不登校の子どもが増えているが、学びたい意欲や外に出たい意欲はある。Chromebookの活用方法を学校や子どもたちに聞くと、授業で意見を言うときや資料作成に限られている。不登校の子どもが学校の雰囲気だけでもわかると違うと思う。

【市長】家ですべての授業を受けるとなると、すべての教室にカメラを設置しなければならないので難しい。ただ、不登校の児童生徒をサポートするために、Chromebookを利用する取り組みは始めている。例えば、学校の雰囲気を伝えるために、先生からのメッセージを配信している。基本的に能美市の子どもたちはChromebookを家に持って帰って、活用してもらうことにしているので、さらに内容が増えるようにしたい。

【参加者】不登校児童生徒の健康診断について問題となっているが、学校医で無料で受けられないか。小児科や内科で健康診断は受けられるが、お金がかかる。学校に行っていれば、健康診断は無料で受けられるものである。

【参加者】保育園では、休んで眼科検診や歯科検診を保育園で受けられなかった場合、「こちらの病院で受けてください」という案内をもらっていたので、学校でも同様にできるのではないか。

【市長】詳しく把握していないので、一度確認する。費用がかかるのはおかしいと思う。今、公民館でオンライン診療を行おうと考えている。ただし、オンラインで診ることができるのは、顔色や血圧くらいであり、学校の健診でどこまで診ているかにもよるので、オンライン診療をどこまで広げられるのか検討が必要である。学校や病院へ行くのが難しい場合は、サンテで機会を設けて来ていただくことも考えられる。

【参加者】「能美市デジタル学校」ができないか。不登校の子どもの担任がそれぞれ授業

を行わなくても、デジタル学校が一つあるだけで、オンライン授業を受けられたり、アバター登校したりできる。

【市長】コロナの時に、知らない先生の授業はあまり受け入れられないと感じた。小学校の場合は担任がいて、担任が教えてくれるから関心を持って聞くことができるのではないかと思う。

【参加者】アバター担任はどうか。子どもは食いつくと思う。直接学校に通わなくても外部と繋がる方法や知識を手に入れる方法があると嬉しい。

【参加者】能美市は、学校や教育センターに行かないと出席扱いにならない。不登校が増えているので、オンラインの出席でもカウントできるように変えていかないとダメだと思う。

【参加者】先生によると思うが、小学校ではChromebookがすごく活用されていたが、中学校ではあまり活用されていないように感じる。中学校では、アンケートや意見集約の時しか使用されていないとのことだった。先生が忙しいということや担当が科目に分かれているという理由もあると思うが残念である。

【市長】小学校の場合は担任の先生が全部教えるが、中学校では教科によって先生が変わることが一因かと思う。先生によって出来や回数の差がでないようにするため、教育委員会で全体を管理している。授業は先生の裁量によるところがあり、そこで差が出るので、Chromebookで活用事例を共有する等、できるだけ良い授業となるよう情報を全体に広げている。

【参加者】子どもの人数の違いによって、学校での対応に差が出ているようである。

【市長】市内に8ある小学校のうち、一番児童数が多いのは浜小学校で、一学年で3～4クラスある。宮竹小、和気小、福岡小は一クラスの人数が少ない。先生の数は増やしにくいので、今、指導員を入れて人数の多いクラスのサポートしたり、学力に差が出る算数等は別にクラスを作って教えたりしている。

【参加者】浜小学校が大きいので、他に学校を作れないものか。

【市長】全体では少子化で児童数が減っているので、新しく学校をつくるのは現実的ではないように思う。また、小中学校の建物の老朽化が進み、築50年以上が面積比で約35%を占めているので、それを直していかなければならない。一つの学校を直すのに80億円ぐら

いかかるので、一斉に直すことができず、まずは安全で美味しい給食を提供したいということから、粟生町に給食センターを造っている。そういう状況なので、新しい学校はつくることは難しい。

【参加者】福島町の商業施設は何ができるのか。

【市長】結論をいうと、まだ何も決まっていない。市民の皆さんから、ハンバーガーチェーン店やコーヒーショップ等がほしいという話はよくお聞きする。

【参加者】アドベンチャーガーデン能美の近くに気軽に宿泊のできる施設があったら嬉しいという話を聞いている。

【市長】ぜひ温泉に泊まってほしい。

【参加者】ファミリー層が泊まることのできる安い施設がない。

【市長】市内の宿泊施設としては、能美根上SICそばのスーパーホテル、能美根上駅前のB&B、辰口温泉、SARAIがあり、結構容積的にはある。新たに宿泊施設を造るということになると、今ある宿泊施設の経営を圧迫することになるので難しい。SARAIは手ごろな宿泊価格であり、料理も若者向けなので、ファミリー層に合うのではないかと思う。

【参加者】辰口フラワーハウス跡地には何ができるのか。

【市長】道の駅機能を持った施設を考えている。能美市内でお土産品を買うことができる場所が少ないので、動物園等の帰りに寄って、ご飯を食べたり、お土産品を買ったりできるような施設を計画している。ある程度、話は進んでいたが、コロナ禍や原材料高、エネルギー高で進出の話が遅れてきている。

【参加者】泉台寄りの松が岡に住んでおり、学校まで遠いため、子どもが登校で家を7時前に出ている。高座や上清水、下清水等は冬場、学校までバスが出るが、松が岡は出ない。松が岡と一括りにせず、冬季バスの対象としてもらえないか。冬場は雪がすごい、夏場は暑い、熊が出る、変質者が出るで、親としてすごく心配である。また、子どもを中央小学校まで迎えに行こうとしても、天候の悪いときは、ましじ広場が大渋滞となる。各学童までバスを出してもらえれば、分散して渋滞にならないのではないか。

【市長】スクールバスについては、今見直しをしており、ましじ広場の件を含めて、一度

確認する。